

「現地参加」と「オンライン参加」を同時に実現！

ハイブリッド型で集いの継続を支えるアプリ



つとエール



公益財団法人
身体教育医学研究所
Physical Education and Medicine Research Foundation

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



つどエール



「人と人が集う交流の機会（集い）」が

コロナ禍の影響で実施できなくなった問題を解消するために開発！

スマートフォンやタブレットから、オンラインで簡単に集いを開催できる

コミュニケーション・アプリです。



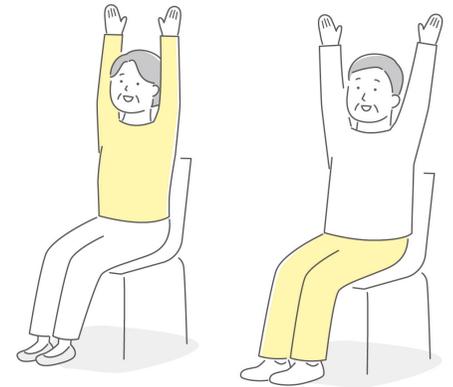
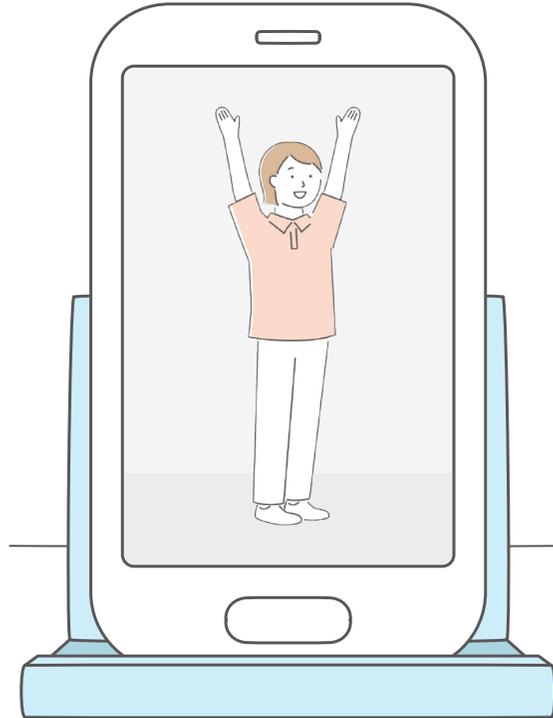
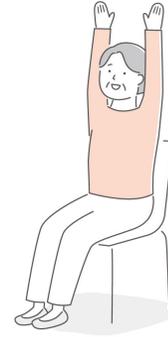
「つどエール」の由来

集いを支援する「集う+エール」という意味合いからの造語で、「集うことができる=集える」や、「都度+（会）える or（元気を）得る」などの意味も込めています。商標登録第6434976号（登録日：2021/8/25）

「つどエール」のある暮らし

コロナ禍でも人と人との
つながりを絶やさない！
新たな集い方をご提案します。

感染予防対策をとりながら定期的に
集う活動を続けるには、とても手間
がかかりました。「つどエール」を
使って気軽にオンラインで繋ぐこと
ができれば、集いに参加できなく
なった・しづらくなった高齢者の
方々にも、集い参加への新たな門戸
が開かれます。



「つどエール」開発のきっかけ

人生100年時代を迎え、高齢者が健康を維持できるよう、身近で定期的に集う活動（集い）や、介護予防サービス等が充実してきました。

しかしコロナ禍のために、それまで行われてきた地域での様々な定期的なグループ活動（集い）が開催し辛い状況になり、その結果、活動や交流の機会が減少し、心身の健康状態への悪影響が危惧されるようになりました。

介護予防に資する

住民主体の通いの場の参加実人数



コロナ禍の影響で
2020（令和2）年度

21%減



コロナ禍によるスポーツ事業への影響とその対応 (1)

2020年度のスポーツ事業中止の実態

- 2020年度当初計画のスポーツ事業（419自治体報告）
17,728件のうち「中止した事業」が49%（8,642件）、
「計画通り実施した事業」が43%（7,704件）、
「計画を変更し、代替で実施した事業」が8%（1,382件）。（図1）
- 2020年度計画した事業のうち、
41-50%を中止した自治体が67団体、
51-60%中止した自治体が65団体、
91-100%中止した自治体が57団体。

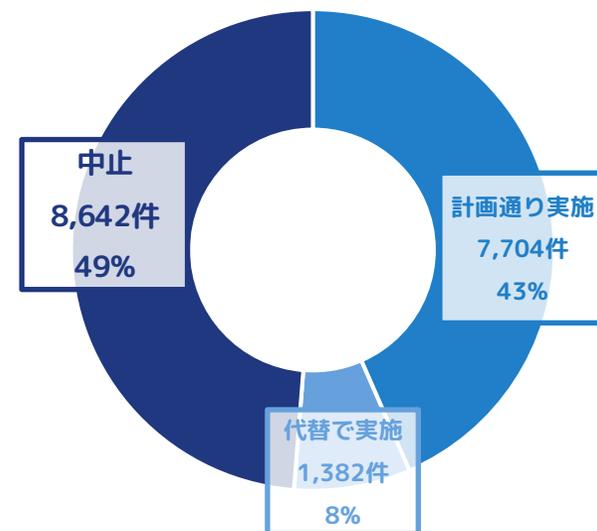


図1：2020年度の事業実施状況

当初計画事業の51%以上を中止した自治体は、252団体、61.3%（図2）

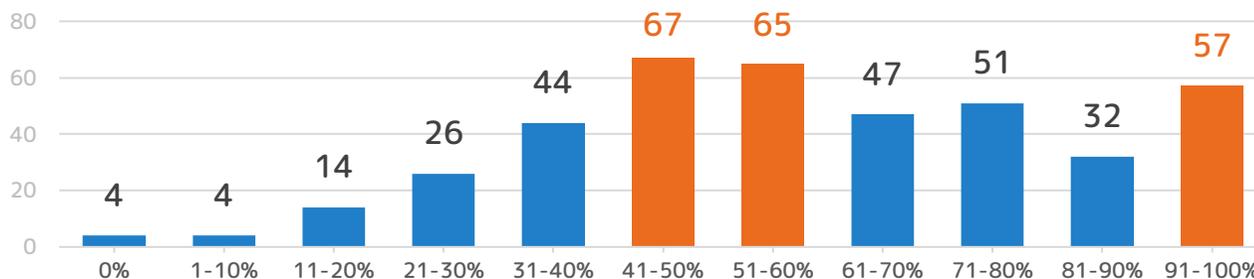


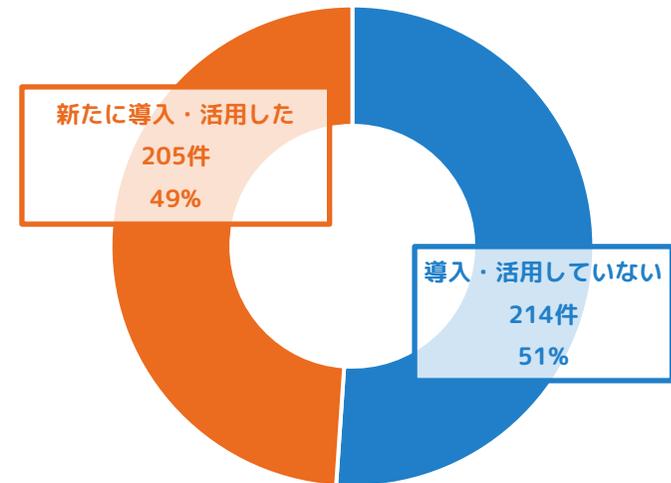
図2：中止率別自治体数

コロナ禍によるスポーツ事業への影響とその対応 (2)

オンラインの導入と活用例

コロナ禍の影響を受けて、オンラインを導入・活用した自治体は49%（205団体）。

活用例は、オンライン会議、動画配信、オンラインイベント、オンライン教室、アプリを用いたウォーキング啓発など。



オンラインの導入・活用の状況

コロナ禍の影響を受け、
多くの自治体でオンラインを導入・活用した
新たな行政サービスへの転換が進められています。

高齢者の健康・生きがいづくりにつながる オンラインの活用

そこで、高齢者の方々にとって、参加することが健康・生きがいづくりの場となっていた平常時の集い（健康教室やサロン活動等）を、スマートフォンやタブレット端末のアプリを使って、オンラインでどこからでも気軽に参加できる環境を整えることで、たとえその場に行けなくても、現地参加に近い満足や効果を提供できる仕組みになると考え、「つどエール」を開発しました。

3密回避で人数制限が必要な場合でも、現地参加とオンライン参加を併用すれば、多人数で開催できます。



集いの場



つどエール



どこからでも
オンラインで参加！

アプリ利用：無料



「つどエール」を利用したい団体（自治体等）には一定の利用料（利用負担金）が必要ですが、対象となる参加者（住民等）の方々のアプリ利用は無料です。
（ただし、通信環境によって利用者に通信料がかかる可能性があります。各会場や個人のインターネット環境をご確認ください。）

「つどエール」について

用語説明

管理する人 (ウェブブラウザ)



エリアマネージャー

自治体等の団体に利用するアプリの管理者として、専用の管理画面から様々なグループの活動を支援・管理することができます。

プランに応じて「つどエール」の利用料を支払う団体の実務担当者

アプリを利用する人 (スマートフォン・タブレット)



世話役

アプリ上で、グループや集いを作成できる権限があります。
世話役は管理者からの招待制です。

例：地域活動のリーダーや役員、運動指導者など



参加者

世話役の招待でグループに所属し、集いに参加することができます。
全国から参加可能です。

アプリの利用料は無料 通信料のみ利用者負担

集い：仲間と交流する機会を意味し、グループ内で開催される様々な教室やレクリエーション1回1回の機会のことを指して「集い」と称します。
グループ：「つどエール」アプリでは、集いを定期的で開催する集団（〇〇教室、〇〇サークルなど）を総称して「グループ」と称します。

「つどエール」を利用したい団体（自治体等）には一定の利用料（利用負担金）が必要ですが、対象となる**参加者（住民等）の方々のアプリ利用は無料です。**
(ただし、通信環境によって利用者に通信料がかかる可能性があります。各会場や個人のインターネット環境をご確認ください。)

つどエールの構想



新規
ユーザー獲得



デジタル
シフト



地域で開催される集いから
「つどエール」の利活用を
提案・促進

集いに参加しづらかった高齢者も
「つどエール」でオンラインから参加

現地とオンラインの併用で
無理なく集いを継続

「つどエール」を活用した“集いのオンライン化”で、
様々な地域のコミュニティを安全・安心に持続させます。



価値・品質
向上



持続可能性
向上



自治体等が
各地域で「つどエール」を
導入・利用

利用状況のデータを基に
サービスの利活用促進策等を
分析・検討

全国で利用数を増やし、
サービスの維持と
さらなる改善につなげる

「つどエール」ができること

地域にある様々なグループの定期的な集いを休止することなく、活動が継続することを応援します。

また、感染対策だけに限らず、例えば、体調不良で現地に行きにくくなった、現地と行き来する時間や移動手段がなくなった、といった個別に事情のある人たちにとっても、グループをやめることなく、無理なく集いへの参加を続けてもらうことができます。



機能面の3つのポイント

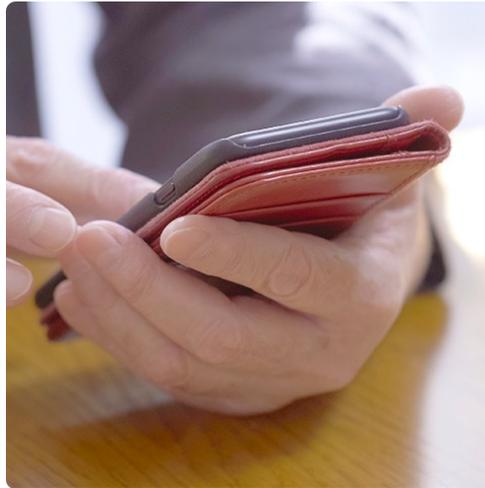


簡単操作

複雑な機能を減らすことで、少ないステップで操作可能。操作マニュアルを用意し、サポートします。

世話役

参加者

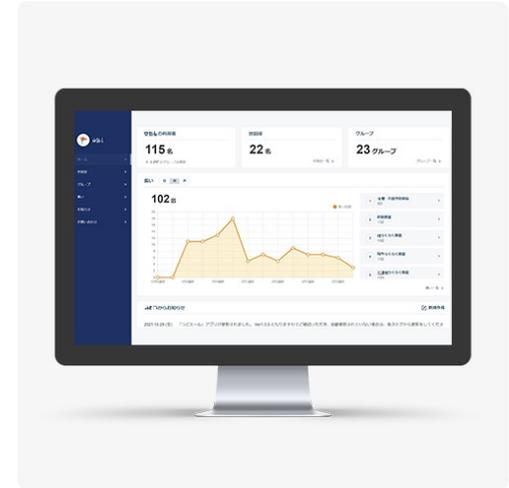


シニア向け スマートフォンにも対応

高齢者の利用率が伸びているシニア向けスマートフォンにも対応しており、幅広いご利用が望めます。

世話役

参加者



活動データの収集

パソコンの管理画面から、登録や参加状況などを把握。集いの開催を促進・支援することができます。

エリアマネージャー

さらに2つの新機能

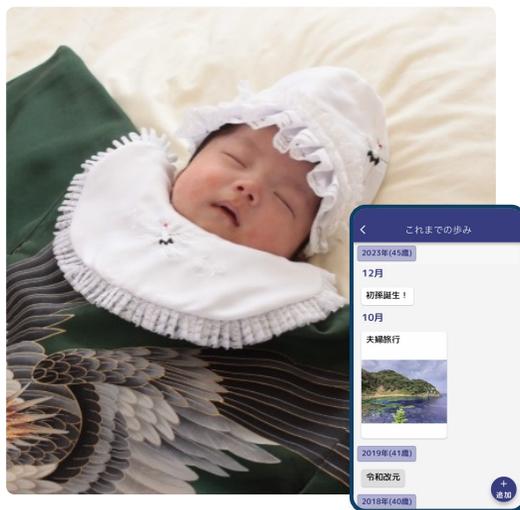


日々の健康づくりを促進する「歩数計機能」

1日の目標歩数をご自身で決められ、達成するとバッジがもらえる歩数計機能です。毎日の健康づくりにお役立てください。

世話役

参加者



これまでの振り返りや、これからの目標を記録 手軽に自分史が作れる「わたしの歩み」機能

今までの出来事を画像と文章で登録できる「これまでの歩み」機能と、これからの目標や伝えたいことを登録できる「これからの歩み」機能で、アプリの中に自分史を作ることができます。登録した内容は、参加するグループの世話役や管理者に共有することも可能です。

世話役

参加者



導入によって期待できる効果



集い参加者の拡大

集いの現地に足を運ばなくても集いに参加できるので、参加者の拡大や満足度の向上が見込めます。



リテラシー教育

高齢者のICTリテラシー教育（スマートフォンの基本操作を学ぶ機会を設ける等）と結びつけることで、相乗効果が期待できます。



現地の集いの継続

つどエールを利用することで、現地で行われている既存の集いを休止することなく継続できます。

利用者の声 ～エリアマネージャー・世話役～



エリアマネージャー
(行政担当者)

まん延防止等重点措置期間は、1つの場所に集まることが全て中止になりましたが、グループ活動を毎週続けてきたいくつかの介護予防教室は「つどエール」で既につながっていたので、世話役が、同じ曜日、同じ時間に教室をオンラインで開催し続けることができ、参加者に喜ばれました。



世話役
(福祉職員)

感染拡大時でも、デイサービスへ呼べなかった外部講師を「つどエール」でつないで会場の大きなテレビに映し、レクリエーションを継続することができました。



世話役
(地域リーダー)

会場の人数制限があっても、現地参加とオンライン参加をうまく割り振れたので、参加者の満足度を落とすことなく集いを開催し続けることができました。



世話役
(地域役員)

集まらない時でも、地域のちょっとした会議の開催に活用させてもらいました。

利用者の声 ～参加者～



参加者

長い間、集いがお休みになってしまい、自分だけではやる気にならなかったと思うが、「つどエール」のおかげでかわらず運動ができ、元気に過ごせた。利用して本当に良かった。



参加者

自宅から参加できたので、主人も一緒に体操をするようになりました。今までは教室に誘っても断られていたのに、こういう状況になって、出不精な主人が教室を体験してみる良いきっかけになりました。



参加者

都合が悪くても後で録画が見れたので、毎週欠かさず運動ができました。子どもや孫も興味をもって、一緒に運動をやってくれました。

「つどエール」の仕組み

参加者が「つどエール」のグループに入るまでの流れ



エリアマネージャー



世話役



参加者

01 エリアマネージャーが世話役に適任な人を直接招待します。

QRコードの画像を印刷もしくはメールなどで、世話役になってもらいたい人だけに提示します。

02 世話役になった人がグループを作成します。

グループを作るごとに、参加者を募るための合言葉（ひらがな4文字）が、自動的に生成されます。

03 参加者がグループに入ります。

合言葉（ひらがな4文字）を知っている人だけが、グループに入ることができます。

世話役と参加者は、あらかじめご自分のスマートフォン・タブレットにアプリをインストールしておきます。
(アプリはApp Store、Google Playにて「つどエール」で検索。無料でインストール可能。)

集い開催の流れ



世話役



集いを作成

集いを作成します。作成した集いはグループ詳細に表示されます。



集いを開始

集いを開始します。集いを録画しておけば後で視聴することもできます。



集いの動画を公開

録画した集いをグループメンバーにだけ公開できます。

開催前

開催当日

終了後



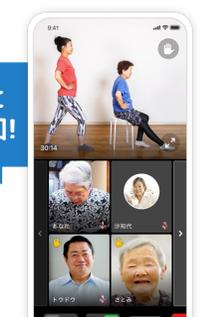
参加者



集いを予約

参加したい集いを予約します。予約しなくても集いには参加できます。

開催されると参加者へ通知!



集いに参加

集いに参加します。開催中の集いに途中から参加することもできます。



集いの動画を視聴

所属するグループ内で公開された動画を視聴することができます。

管理画面について (1)

エリアマネージャーは、専用の管理画面にログインして団体内の様々なグループの活動を支援・管理できます。

▼ ホーム



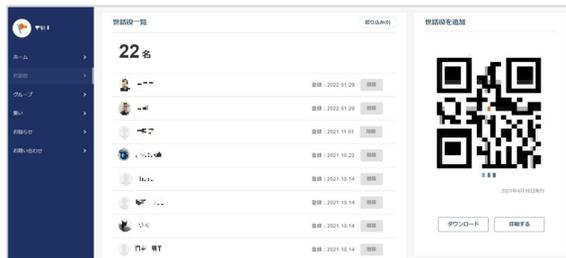
確認できる
主な項目

- ・ 利用者の人数
- ・ 世話役の人数
- ・ グループの数
- ・ 集いの開催回数（日別・週別・月別）
- ・ グループごとの集い開催回数
- ・ 運営からの重要なお知らせ
- ・ 利用者へのお知らせ

管理画面について (2)

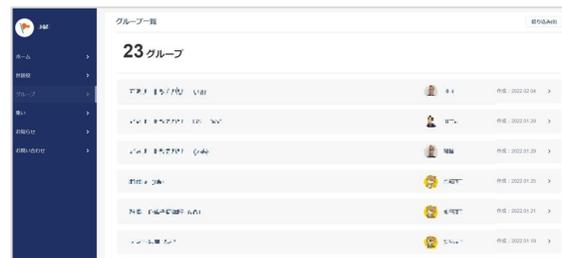
管理画面の各ページで管理・確認できる主な内容

▼ 世話役



- 世話役の人数
- 世話役一覧
- 世話役招待用QRコード

▼ グループ



- 各グループへの参加人数
- 各グループを作成した世話役

▼ グループ詳細



- 集い一覧（開催予定・開催中・開催済み）
- 集いの開催日時・参加者・録画された映像

▼ 集い



- 団体内の集い一覧
- 各集いの詳細（開催日時・参加者・映像）

▼ お知らせ配信



- 団体に登録している利用者（世話役・参加者）へのお知らせ配信

▼ お問い合わせ



- つどエール運営者へのお問い合わせ

料金・お申し込み方法

「つどエール」利用プラン エリアマネージャー（自治体等）の利用負担金

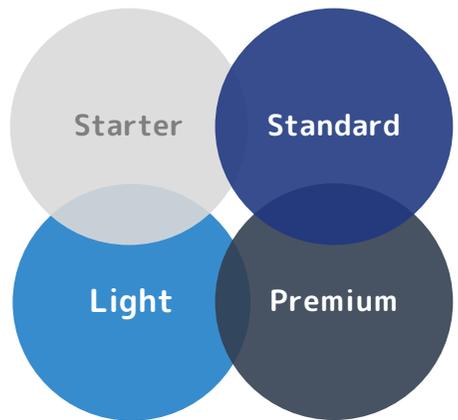
自治体等の団体内で想定しているアプリ利用の規模に応じて、4種類のプランをご用意しています。

	スターター 試しにはじめる 実施計画がこれからの方	ライト 制限を気にせず 継続的な実施を期待する方	スタンダード 定期的に継続して 実施される方	プレミアム より広く多く活用して 地域の健康促進を強化したい方
	無料	45,000円/月 (税別)	75,000円/月 (税別)	99,000円/月 (税別)
世話役	5人まで	100人まで	300人まで	無制限
集い	10回まで (1ヶ月)	100回まで (1ヶ月)	300回まで (1ヶ月)	無制限
集い時間	30分まで (1回)	60分まで (1回)	120分まで (1回)	無制限
録画時間	×	◎	◎	◎

「つどエール」を利用したい団体（自治体等）には一定の利用料（利用負担金）が必要ですが、対象となる参加者（住民等）の方々のアプリ利用は無料です。
 （ただし、通信環境によって利用者に通信料がかかる可能性があります。各会場や個人のインターネット環境をご確認ください。）

「つどエール」導入の手続き

導入のご相談や申し込み書の入手方法など、お手続きにつきましては担当者までご連絡ください。



つどエール 導入申し込み書

申し込みの流れ

- 1 申し込み
下記に必要な項目を入力し、担当者へお送りください。
- 2 確認
アプリ運営者側で確認を行い、必要な情報をお知らせします。
- 3 ご利用開始
管理画面にアクセスし、サービスを開始しましょう。

お名前 姓 名 姓

会社名	フリック		
代表者名	代表者名	代表者名	代表者名
電話番号	メールアドレス		

利用目的

※ 本サービスは、お客様の個人情報を収集・処理いたします。お客様の個人情報は、本サービスの提供に必要と認められる限り、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。

基本グループ数	基本グループの 申し込み数	基本グループ数 申し込み数	基本グループ数 申し込み数
---------	------------------	------------------	------------------

同意の取得

<input type="checkbox"/> 同意します	サービスに 参加します	<input type="checkbox"/> 同意します
--------------------------------	----------------	--------------------------------



01 プランの選択

実際に想定される活用見込み（グループや世話役数、集いの開催回数、1回の集い時間、録画の有無）に応じてプランを選びます。

02 申し込み手続き

導入申し込み書を確認し、必要事項を入力（もしくは用紙に記入）します。

03 利用開始ログイン

申し込み書が受理され、利用開始の案内が届いたら、指定されたIDとパスワードを使って、パソコンの管理画面からログインできれば完了です。



おわりに

「つどエール」公式ウェブサイト

「つどエール」に関する情報（よくある質問、新着情報、かんたんガイドブック、アプリ入手先のリンクなど）は、「つどエール」公式ウェブサイトから入手することができます。



<https://www.tsudo-yeell.net/>

運営について

アプリ「つどエール」は、公益財団法人身体教育医学研究所が実施した2020年度日本財団助成事業
「withコロナ時代に高齢者が繋がり続ける活動を発展させるハイブリッド型支援法の確立」
(事業ID：2020532035、事業期間：2020年10月20日～2022年3月31日) および
2021年度日本財団助成事業「ハイブリッド型つながり支援による健康寿命延伸事業モデルの構築」
(事業ID：2021020821、事業期間：2022年3月22日～2023年12月31日) の
成果物として開発されたものです。



公益財団法人
身体教育医学研究所
Physical Education and Medicine Research Foundation

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

事業主体	公益財団法人身体教育医学研究所 (長野県東御市)	開発運営	株式会社スノウロビン (兵庫県神戸市)
事業協力	身体教育医学研究所うんなん (島根県雲南市)	事業助成	公益財団法人日本財団 (東京都港区)